



発達障害って何？



発達障害には、自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠如・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などがあります。一口に発達障害といっても状態像はさまざま、同じ診断名であっても、その人の性格・発達状況や年齢・置かれた環境などによって目に見える症状は異なります。どんな能力に障害があるか、どの程度なのかは人によってさまざまなのです。中には優れた能力が発揮されている場合もありますが、発達の偏りによる苦手な分野もあることから、周りの人に理解されにくい障害といえます。また、この特性によって、子育てが難しくなることがあり、保護者の負担が大きくなることもしばしば見られます。

発達障害のある人は、さまざまな困難を抱えながら成長します。「障害」という言葉は、生活や成長の過程で「困難さ」が生じる場合に付け加えられる言葉ですが、その人が置かれた場所で「困難さ」を減らすことができれば「障害」ととらえる必要はなくなります。

おもな障害の特性



知的な遅れを伴うこともあります

発達障害のある子どもたちの中には運動の不器用さや感覚の過敏さ、または、鈍感さをもつことも多いです。

自閉症スペクトラム障害 ASD (広汎性発達障害)

- 対人関係・社会情緒的な相互関係がとりにくい（友だちとうまく遊べないなど）
- 言葉の発達の仕方に遅れや独特さがある
- 独特なコミュニケーションのとり方をする
- こだわりの強さや融通の利かなさがある

自閉症・アスペルガー症候群も含まれます。

注意欠如・多動性障害 ADHD

- 不注意（集中が続かない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」「書く」「計算する」等の学習が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手



発達障害のある子どもたちには、周りの人の気付きと正しい理解、その子に合った適切な支援が必要です。

大切なことは、何が苦手なのかではなく、どのような工夫や支援をすればできるのか、また、今、どんなことができ、どんな素敵な面を持っているのかといった「その子」自身の幅広い全体像に目を向けていくことです。

一人ひとりに合った支援をすることで、子どもも、ご家族も、より安心して生活をしていくことが可能になります。

※ 子ども発達支援センターでは、子どもさんの発達の理解や支援の方法などについての相談をお受けしています。

